



日本遺産

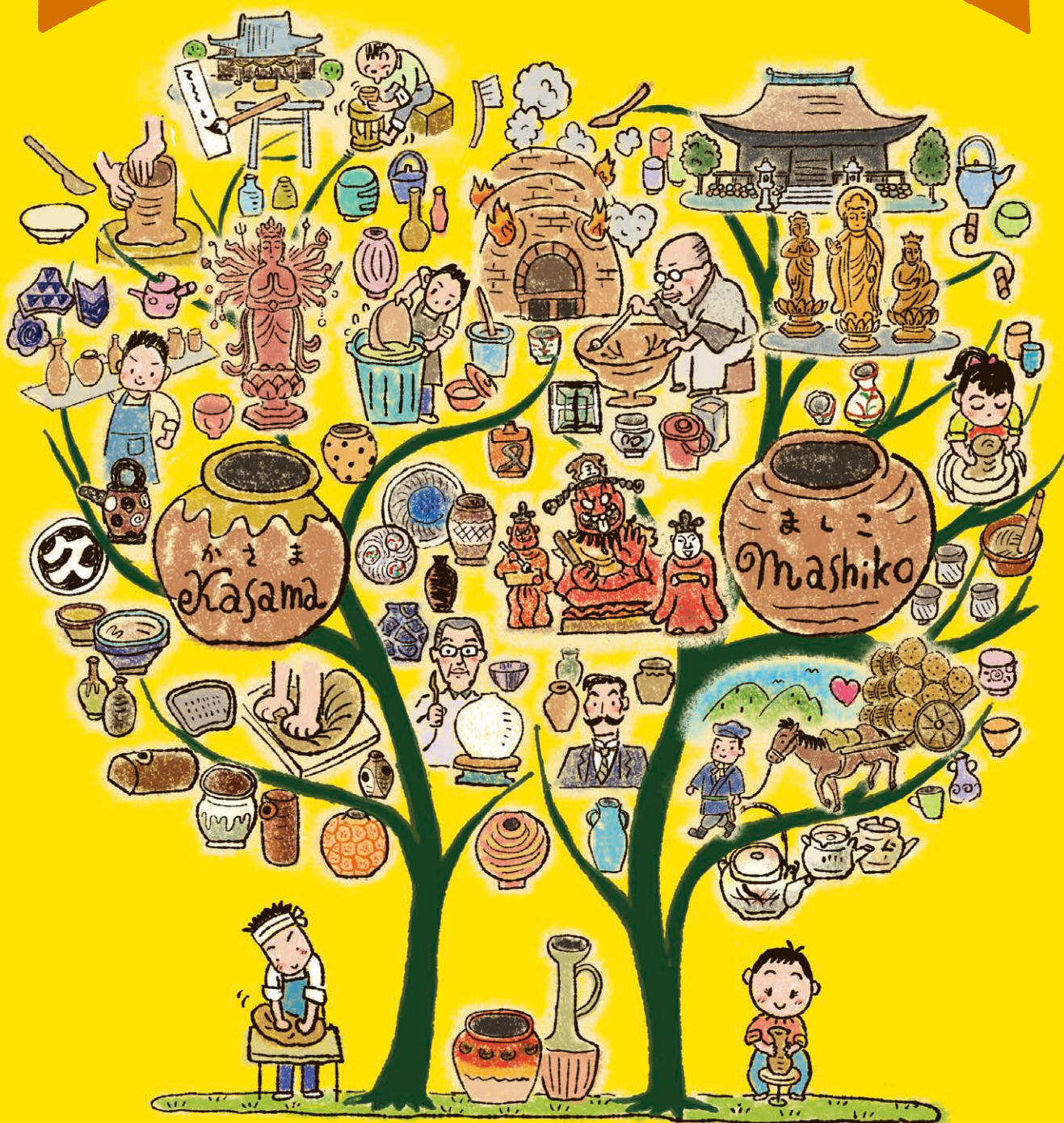
日本遺産

にほんさん 日本遺産 かさましご

HERITAGE
遺産

きょうだいさんちつむやもの
兄弟産地が紡ぐ“焼き物語”

ストーリーブック
Story Book



かさまましこ 笠間と益子は 焼き物の兄弟産地!

山をはさんで隣り合う茨城県笠間市と栃木県益子町。

この2つのエリアのことを、

「かさま」と「ましこ」で「かさましこ」といいます。

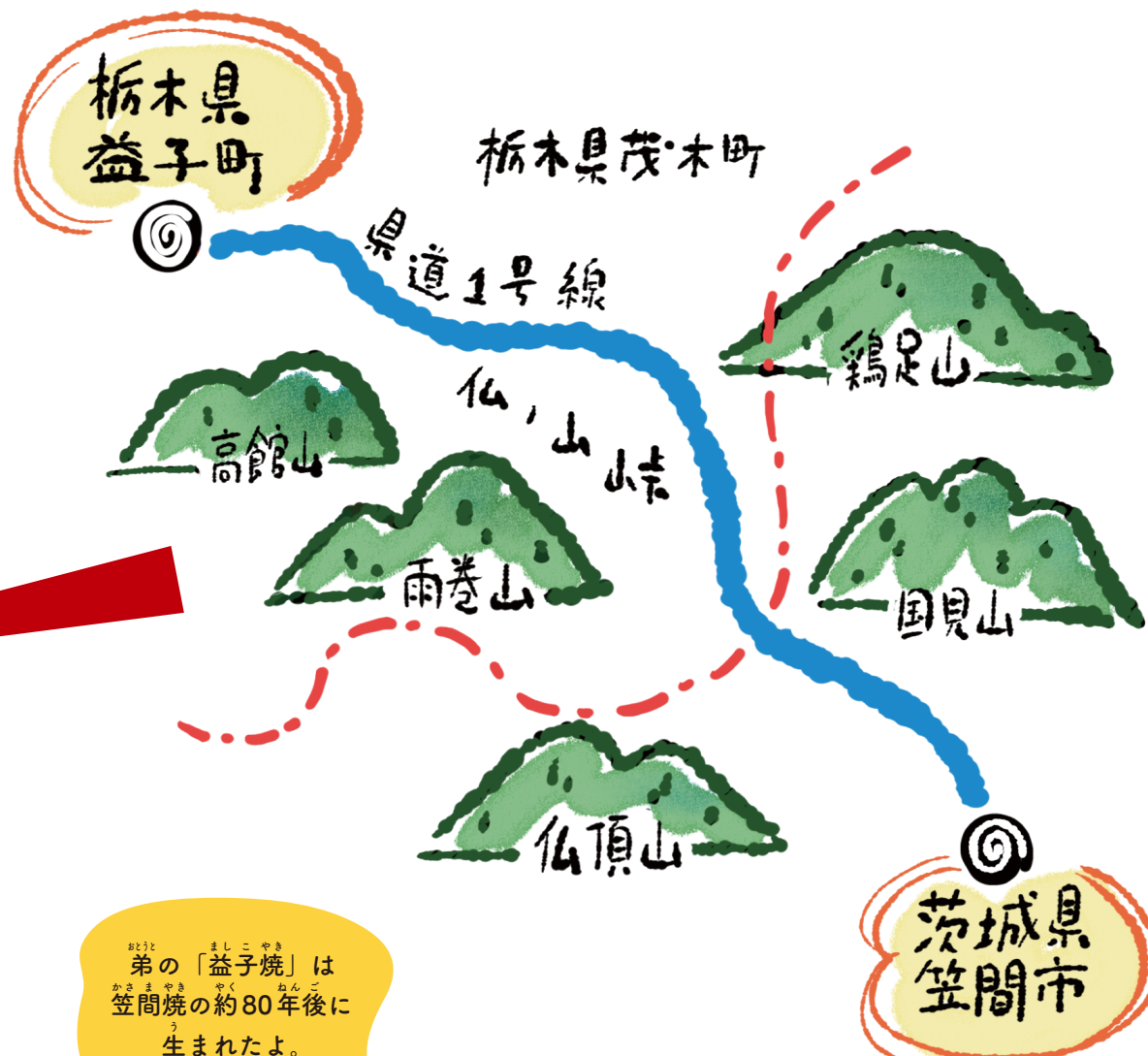
「かさましこ」は、

信楽焼から生まれた焼き物の兄弟産地。

2020年には、～兄弟産地が紡ぐ“焼き物語”～として、
日本遺産に認定されました。

目次

Story 1	焼き物の始まり	4
Story 2	宇都宮氏の時代	6
Story 3	笠間焼の始まり	10
Story 4	益子焼の始まり	12
Story 5	暮らしのようす	14
Story 6-1	益子焼の変化	16
Story 6-2	笠間焼の発展	18
◎	笠間の陶炎祭／益子陶器市	20
Story 7	震災からの復興	22
Story 8	進化するかさましこ	24
◎	日本遺産かさましこ 構成文化財	26
◎	かさましこ文化財 MAP	30



「日本遺産」ってなに?

日本には、その土地ごとに、そこならではの歴史や伝統、風習や文化があり、今に受け継がれています。これらの魅力的な物語を国が認定したのが「日本遺産」です。
全国には、全部で104の日本遺産があります。

きげんぜん ねんだい
紀元前～800年代
こふんじだい へいあんじだい
古墳時代～平安時代

やもの
焼き物のはじまり



かさま ましこ ふる 笠間と益子では古くから やもの つく 焼き物が作られていたよ

なぜなら、やもの つく
必要なものがあったから

1 いい土があった！

やもの ざいりょう ねんど
焼き物の材料は、粘土。かさましこに
は、焼き物を作るのに適した土があっ
たのです。



2 燃料となる薪があった！

やもの つく ねんど
焼き物を作るには、粘土を焼くための
火が必要。かさましこでは、火をたく
ための薪（木材）がたくさんとれたの
です。



3 たくさんの水があった！

ねんど つく もち みず ほうふ
粘土を作るときに用いる水が豊富にあ
りました。ろくろで焼き物の形を作る
ときも使われたと考えられています。



にほん やもの れきし
日本の焼き物の歴史



縄文土器

じょうもんどき

16000年前～2300年前



弥生土器

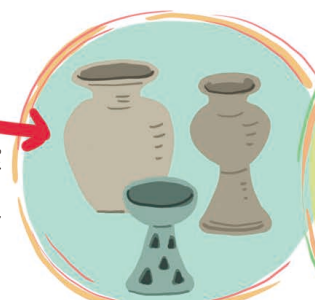
やよいどき

2300年前～



朝鮮半島

ちようせんはんとう ぎじゆつ
朝鮮半島の技術
をもとに作られ
た須恵器。



須恵器

すえき



土師器

はじき

1600年前～1000年前



にほん いさんこうせいぶん かざい
日本遺産構成文化財

ましこ こようしぐん
益子古窯跡群

益子



1200年前ごろに作られた焼き物
(須恵器) の破片がみつかっていま
す。笠間も益子も同じ技術を使っ
て焼き物を作っていたことが、底
のうずまき模様からわかります。



宇都宮氏一族が みやびな文化をとりいれた

宇都宮氏は、京の都に
ゆかりのある武士

約950年前から500年にわたり、かさましこを治めていた宇都宮氏は、京の都に仕えていた由緒ある家の武士でした。平安時代後期に起きた戦で手柄をたて、現在の宇都宮二荒山神社をまかされたことをきっかけに、この地を治めるようになります。その後も都と交流を続け、たため、かさましこには、華やかな都の文化が伝わったのです。



鎌倉幕府の 信頼も厚かった

源頼朝が鎌倉幕府を開き、平安貴族から武士が力をもつ時代へと変わりました。宇都宮氏は、鎌倉幕府にも信頼され、戦いの場でも多くの手柄をたてました。

笠間城を築き、笠間地域を治めた「笠間氏」は宇都宮氏の一族です。また、益子地域を治めた「益子氏」は、宇都宮氏の家臣で、娘を嫁がせ親戚関係となりました。



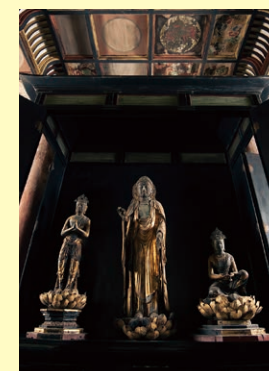
日本遺産構成文化財

地蔵院本堂



益子

もともとは1193年、宇都宮氏の3代目朝綱が建てた尾羽寺の「阿彌陀堂」でした。現在の本堂には、快慶作といわれる木造阿彌陀三尊像が祀られています。



ぶつぎょう しんこう
仏教を信仰し
ぶつぞう せいさく きょうりよく
仏像の制作にも協力した

うつのみやし うつのみやみょうじん じんじや
宇都宮氏は、宇都宮明神という神社の
しんしよく 神職をつとめるとともに、ぶつぎょう 仏教を深く
しんこう 信仰しました。そして、時代を代表す
る立派なお寺や仏像を作りました。そ
の多くは今も「かさましこ」に残されて
います。



りょうごん じ
楞嚴寺



笠間

にほん いさんこうせいぶん かざい
日本遺産構成文化財

うつのみやし いちぞく かさま
宇都宮氏一族である笠間
氏の菩提寺（先祖代々の
お墓のある寺）です。笠
間氏初代の笠間時朝が作
らせたとされる「木造千
手観音立像」がおさめら
れています。時朝は、京都
の三十三間堂にも仏像を
奉納しています。



もくぞうせんじゅかんのんりゅうぞう
木造千手観音立像

か じん あつ
すぐれた歌人たちが集まり
わ か よ
和歌を詠んだ

じょうりゅうかいきゅう ひと わ か よ
そのころ、上流階級の人たちは、和歌を詠むこと
で交流をしていました。宇都宮氏は、すぐれた歌
人あつ 人を集めて盛んに和歌を詠みました。この集まり
は「宇都宮歌壇」と呼ばれ、全国に知られるよう
になりました。稲田神社では笠間時朝が奉納歌会
を催したと伝わっています。





久野半右衛門によって 兄・笠間焼が誕生！

もっとみんなの
暮らしを
豊かにしたい！

① 上箱田村の名主さんが 焼き物を作ろうと思った

久野半右衛門は、飢饉や年貢で生活が苦し
かったみんなのために、農業だけでなく、
新たな産業をおこそうと考えました。



お！ 焼き物に向く
いい土があるぞ



② 信楽焼の職人に 焼き物と登り窯の作り方を習った

裏山の粘土が焼き物にぴったりとわかり、
信楽焼の陶工（焼き物の職人）に焼き物
の作り方を習い、窯を築いて焼き物を完
成させました。



信楽焼の陶工・長右衛門



④ 田中友三郎が 「笠間焼」と名づけた

「箱田焼」や「穴戸焼」と呼ばれていた焼き物
の名前を「笠間焼」に統一。江戸にも運ばれ
大切に使われました。



③ 笠間藩主にも大切に守られた

お殿様が焼き物を盛んにしようと、窯元を支
援しました。こうして焼き物の職人が増え、
技術も向上し、多くの焼き物が作られるよう
になったのです。



久野陶園

ここが久野半右衛門が、初めて焼き物を作っ
た窯元（焼き物を製造するところ）です。ま
さに笠間焼の発祥の地といえるでしょう。



笠間

この窯元は、今も笠間焼を
焼き続けているよ



笠間焼発祥に係わる登窯

久野陶園には、久野半右衛門が初めて築いた
登り窯が今も2基残っています。東日本大震
災で一部壊れてしまいましたが、歴史を感じ
させるたたずまいです。



笠間

登り窯は斜面を
利用して作られている





大塚啓三郎が笠間で焼き物を学び 弟・益子焼が生まれた

① 笠間の窯元に通って 焼き物を学んだ

笠間の鳳台院で寺子屋教育を受けていた啓三郎は、笠間の久野陶園で焼き物に出会い、作り方を習い覚えました。



② いい土を見つけて 益子で窯を開いた

益子で農業をしていた啓三郎でしたが、村内で焼き物によい土を発見。根古屋という場所に窯を築き、焼き物を作りはじめました。



啓三郎
焼き物を学ぶ

③ 多くの職人を育てて 益子焼を発展させた

その後、窯元は増えていきましたが、職人の数が足りません。そこで、農家の次男や三男、子どもたちに焼き物を教え、地元で働いてもらうようになりました。



④ 焼き物の学校を作って 益子焼を発展させた

やがて大塚啓三郎の開いた根古屋窯は、2代目のころに「益子陶器伝習所」(学校)も兼ねるようになりました。さらに多くの職人たちを育て、益子焼を発展させたのです。



日本遺産構成文化財

ねごやがま ぎゅうまし こうき でんしゅうじょ
根古屋窯 〈旧益子陶器伝習所〉



益子

大塚啓三郎が開いた窯元です。粘土を保管する当時の石室も残され、同じ場所でも焼き物が作られています。



たくさんの笠間焼と益子焼が 暮らしのなかで使われていたよ

ふだん使いの 素朴な生活のなかの器

丈夫で素朴な笠間焼と益子焼では、どんぶりや甕や鉢などの生活の器が多く作られ、私たちの暮らしのなかで便利に使われていました。そしてかさましこの焼き物は、東日本に広まり、とくに笠間焼のすり鉢は東京で大人気となりました。



どんぶり



山水土瓶 〈益子焼初期作品〉

益子焼ができたころに人気を集めた焼き物です。筑波山や霞ヶ浦の絵が描かれています。単純な線で手早く描くことで大量生産ができるようになりました。

汽車土瓶 〈益子焼初期作品〉



汽車旅が盛んになり、駅弁が普及すると、駅弁と一緒に茶をつめて売られていました。売られた駅と販売店の名前が記されています。



益子



手仕事の焼き物が 売れなくなった！

やがて生活様式が変化し、台所用品はアルミなどの金属製品やガラス製品に変わり、だんだん焼き物は売れなくなりました。かさましこは、焼き物産地として危機を迎えたのです。



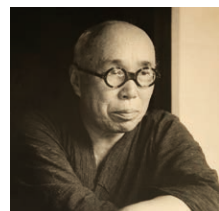


「民藝運動」で益子焼が 大きく変わった

昭和に入ると、益子焼に大きな作風の変化が起こります。

そのきっかけとなったのは「民藝運動」でした。

とうげい か はまだしょうじ
陶芸家・濱田庄司が
ましこ いじゆう
益子に移住してきた



日本で初めて人間国宝に選ばれた濱田庄司は、益子焼の素朴な美しさにひかれ、益子に移住し焼き物をはじめます。濱田は全国の窯元で研究を重ね、さらに世界各地の民藝品を収集。そして朝鮮半島やイギリス、沖縄などの民藝品のもつよさを益子焼にとりいれたのです。



にほん いさんこうせいぶん かざい
日本遺産構成文化財

はまだしょうじ さくひん
濱田庄司作品

益子

力強い「流掛」や、世界各地で学んだ技法と益子の材料を使って多くの芸術作品を残しました。



人間国宝
濱田庄司

「民藝運動」ってなんだろう？

古くから名もない職人によって作られ、暮らしのなかで使われている道具に、わざとらしくない美しさ、自然な美しさを見出し、その大切さを唱えた運動です。こうした道具は「民藝品」として注目され、多くの芸術作品に影響を与えました。

実用の中の美

機能性と美しさの融合



ましこ や ものさつ か
益子は焼き物作家の
ちゆうもく まち
注目の町になった

民藝運動がきっかけとなり、益子にはたくさんの焼き物作家が移り住みました。自由な雰囲気のおかげで、今もたくさんの焼き物が作られています。江戸時代から続く藍染工房も濱田庄司に共感し、伝統技術を生かした作品を多く生み出してきました。



日下田
藍染



学校や工房を作って 焼き物の作家を育てた

笠間では、焼き物の作家を育てたり、作家を全国から集めたりする努力が続けられ、笠間焼をますます発展させました。

焼き物の学校を作り 若い作家を育てた

茨城県が「窯業指導所」（焼き物を教える学校）を設立し、焼き物の技術を教えました。そして、ここで学んだ若い作家たちは、自由な感性で焼き物を作るようになりました。



日本全国から 焼き物作家を集めた

芸術家たちを集めるための「芸術の村」や、焼き物がしやすいように「窯業団地（焼き物ができる工房を集めた場所）」を作りました。これによって、焼き物の作家たちが笠間に移り住むようになりました。



伝統工芸と芸術が 新しい笠間焼を生み出した

笠間焼の作家が増え、伝統を重んじる作家と、芸術を志す作家が親しく交流することで、これまでにない、新しい笠間焼が生まれました。食器などの生活用品だけでなく、アートやインテリア作品も多く作られるようになったのです。

陶板画



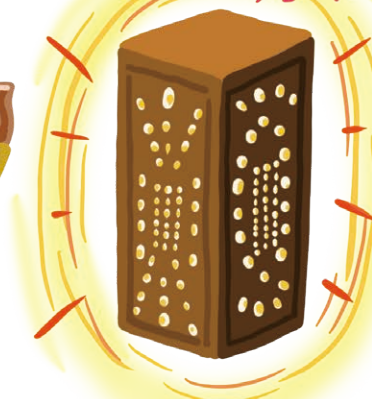
オブジェ



陶時計



ランプシェード



人間国宝
松井康成



日本遺産構成文化財

まつい こうせい さくひん
松井康成作品

笠間

古くからあった焼き物の技法をもとに独自の技法を編み出し、斬新な作品を多く作りました。人間国宝にも選ばれています。



毎年、ゴールデンウィーク期間中に開催される茨城県最大のイベントです。笠間芸術の森公園に、200軒以上の陶芸家・窯元・地元販売店などが工夫をこらした店を出し、50万人をこえる多くの買い物客が訪れます。

笠間の陶炎祭

(日時) 毎年4月29日～5月5日

(会場) 笠間芸術の森公園イベント広場

どめん
土面コンクール
にも注目!

陶炎祭

土面コンクール

おいしい食べ物
のお店も!



ましこ 益子

春と秋の2回開催され、町のあちこちに約50店、約500のテントが立ち並び、春は40万人、秋は20万人の買い物客でにぎわいます。食器や美術品などがだんより安い価格で売られているのも魅力です。

益子陶器市

(日時) 春：ゴールデンウィーク

秋：11月3日前後

(会場) 城内坂ほか町内各地

まちある
町歩きも
たのしみながら!

この
好みの作品が
み
見つかる!



かさましこは手を取りあって復興を進めているよ

2011年3月11日の東日本大震災で、笠間と益子は大きな被害を受けました。でも、復興に向けてみんなでがんばっています。

地震で、焼き物が割れたり
古い窯が壊れたりした

激しい揺れで焼き物が割れ、古くから伝わってきた貴重な登り窯が破壊されました。東日本大震災の損害は大きなものでした。でも、かさましこの焼き物作家たちは決してくじけることはなく、日々、焼き物作りを続けています。



笠間と益子
兄弟でますます元気に！

東日本大震災は不幸なできごとでしたが、壊れた登り窯の修理のために笠間と益子の焼き物作家たちが協力しあうなど、交流がますます盛んになりました。兄の笠間焼と弟の益子焼、これからも刺激しあいながら、技術や感性を磨き、絆は深まっていくことでしょう。

濱田庄司登り窯復活プロジェクト

人間国宝・濱田庄司が生前使っていた登り窯が2011年の東日本大震災で壊れてしまいました。そこで、益子の焼き物作家や学生たち約100名が集まり、ボランティアで登り窯を修復。2015年、ついに40年ぶりの火が入りました。第2回からは、笠間の焼き物作家もこのプロジェクトに参加。震災から立ち直ろうとするみんなの思いを象徴するできごとでした。





自由な作風で親しまれ 進化し続けるかさましこ

日用品から芸術作品まで、時代に合わせて進化してきたかさましこの
焼き物。たくさんの人の役に立ち、喜ばれ、大切にしてもらえる焼き
物になるよう日々努力しています。



へいあんじだい 平安時代

かまくらじだい 鎌倉時代

- 1 ましここようしぐん 益子古窯跡群
(西山・本沼窯跡群, 原・境窯跡群, 栗生窯跡群)

1200年前に焼き物を焼いていた窯や、焼き物の破片が見つっています。



- 2 さいみょうじ 西明寺 (三重塔, 楼門, 本堂内厨子)



宇都宮氏の家臣・益子氏が建立した三重塔, 楼門, 本堂内厨子は国の重要文化財です。



- 3 つなじんじや 綱神社 (摂社大倉神社含む)



宇都宮氏3代の朝綱が建立したと伝えられています。国の重要文化財に指定されています。

- 4 えんつうじ 円通寺表門



宇都宮氏, 益子氏に支えられて栄えた寺。表門は国の重要文化財に指定されています。

- 5 うつのみやけ 宇都宮家の墓所



初代宗円から33代政綱まで、宇都宮家当主の墓がずらりと並んでいます。

- 6 じぞういんほんどう 地蔵院本堂



尾羽寺の阿弥陀堂として宇都宮氏3代朝綱が創建。国の重要文化財にも指定されています。快慶作といわれる阿弥陀三尊像が祀られています。



宇都宮氏



笠間氏



- 7 かさまいなりじんじやほんでん 笠間稲荷神社本殿



笠間

産業発展の神様として崇められました。見事な彫刻が施された本殿は国の重要文化財に指定されています。

- 8 どうほんいつさいきょう 唐本一切経

900年前に中国で木版印刷されたお経の本。笠間氏が手に入れた神社に奉納しました。



笠間

- 11 さんしよじんじや 三所神社



笠間時朝が、笠間の総鎮守(その土地を守る神様)として創建しました。

笠間

- 13 もくぞうみろくぶつりゅうぞう 木造弥勒仏立像

笠間時朝が作らせた仏像。弥勒教に祀られています。国の重要文化財です。



笠間

- 14 もくぞうやくしにょらいりゅうぞう 木造薬師如来立像

笠間時朝が作らせた仏像。若谷寺に祀られています。国の重要文化財です。



笠間

- 15 りょうごんじ 楞嚴寺 (山門, 木造千手観音立像)



笠間

笠間時朝が作らせた木造千手観音立像が祀られています。国の重要文化財にも指定されています。

- 9 かさまじやうあと 笠間城跡 (笠間城櫓・城門)



笠間

笠間時朝が築き、笠間氏歴代藩主の拠点となりました。

- 10 いなだじんじや 稲田神社



笠間時朝が、ここで奉納歌会を開きました。時朝の歌碑もあります。

笠間

- 12 かさましるいだい 笠間氏累代の墓



鎌倉時代から18代約380年続いた笠間氏の墓地です。

笠間

えどじだい 江戸時代

めいじじだい 明治時代

たいしやうじだい 大正時代

しやうわじだい 昭和時代

16 く の とうえん 久野陶園



久野半右衛門が開いた窯元で、ここで笠間焼が誕生しました。

17 かさま やき はっしやう 笠間焼発祥に係わる登窯



久野陶園に残されている登窯。半右衛門が信楽焼の陶工に教わって作りしました。

19 た なかともしざぶろう 田中友三郎 彰徳碑



田中友三郎は、笠間で焼かれたいろいろな名前前で呼ばれていた焼き物を「笠間焼」と名づけ、全国に広めました。

20 な ま こ ゆうながし けちやつぽ 海鼠釉流掛茶壺 (笠間焼初期作品)



21 こくゆうこねばち 黒釉捏鉢 (笠間焼初期作品)



江戸時代末期に焼かれた笠間焼のこね鉢。製陶ふくだにあります。

笠間焼の誕生

18 ほうだい いんさんもん 鳳台院山門



益子焼を初めて作った大塚啓三郎が寺子屋教育を受けたお寺です。ここから久野陶園に通って焼き物の作り方を習いました。

22 ねごやがま 根古屋窯 (旧益子陶器伝習所)



大塚啓三郎が作った窯で、ここで益子焼が初めて焼かれました。

益子焼の誕生

23 とうそ けんしやうひ 陶祖顕彰碑



大塚啓三郎の功績をたたえて建てられました。

24 あしぬまいしさいくつじやう 芦沼石採掘場と益子の柿釉



益子焼で使われる釉薬の原料の石をここで取っていました。

25 いわたせいとう 岩下製陶 (太平窯) 登窯



関東より北でもっとも大きい登窯が残り、見学ができます。

26 さんすい どびん 山水土瓶 (益子焼初期作品)



明治時代後期から昭和初期に、大人気になった益子焼の土瓶です。

27 きしや どびん 汽車土瓶 (益子焼初期作品)



駅弁といっしょに、お茶を入れて駅で売られた益子焼の土瓶。

28 はまだしやうじざくひん 濱田庄司作品



世界にも注目された濱田庄司の作品です。

29 ましこさんこうかんうえんだい 益子参考館上台 (旧濱田庄司邸離れ)・益子参考館細工場



濱田庄司が住んだ建物が残されています。濱田はここで焼き物作りに励みました。

民藝運動と益子焼の発展

30 ましこさんこうかんのぼ 益子参考館登り窯



濱田庄司が使った登り窯が今も残り、見学ができます。

31 きやうはまだしやうじていおもや 旧濱田庄司邸母屋



濱田庄司が暮らした母屋は、陶芸メッセに移築されています。

32 しまおかたつざうさくひん 島岡達三作品



濱田庄司の教えを受けて活躍した焼き物作家・島岡達三の作品です。

33 ひげた あいぞめこうぼう 日下田藍染工房 (日下田邸 (染色工房併用)・藍染め窯場・草木染)



江戸時代から続く藍染め屋で、昔ながらの染め物が続いています。

ふたり にんげんこくほう 2人の人間国宝



濱田庄司
益子に住み、すぐれた焼き物を作り、民藝運動を推進しました。



松井康成
さまざまな技法を編み出し、笠間焼を芸術にまで高めました。

34 まついこうせいざくひん 松井康成作品



工夫をこらして、これまでにない美しい笠間焼を生み出しました。

こうげいとうき 工芸陶器への転換と笠間焼の発展

35 しゅんぶうばんり そう 春風萬里荘



焼き物も多く作った芸術家・北大路魯山人の家が移築されています。

36 いばらき けんりつかさ まとうげいだいがっこう 茨城県立笠間陶芸高等学校 (旧茨城県窯業指導所)



焼き物を教える学校で、多くの若い作家を育てています。

24 あしぬまいしさいくつじょう ましこ かきゆう
芦沼石採掘場と益子の柿釉

4 えんつうじ おもてもん
円通寺表門

はまだしょうじ きねんましこさんこうかん
濱田庄司記念益子参考館
はまだしょうじ さくひん
28 濱田庄司作品
ましこさんこうかんうんだい さいくぼ
29 益子参考館上台・細工場
ましこさんこうかんのぼがま
30 益子参考館登り窯

25 いわしたせいとうのぼりがま
岩下製陶登窯

33 ひげた あいぞめこうぼう
日下田藍染工房

22 ましこえき
益子駅

ねごやがま
根古屋窯

ましことうげいびじゅつかん
益子陶芸美術館
とうげい
陶芸メッセ・益子

さんすいどびん
26 山水土瓶
きしゃどびん
27 汽車土瓶
きゅうはまだしょうじていおもや
31 旧濱田庄司邸母屋
しまおかたつぞうさくひん
32 島岡達三作品

2 さいみょうじ
西明寺
23 とうそけんしやうひ
陶祖顕彰碑

1 ましこことうしげん
益子古窯跡群

うつのみやけぼしよ
宇都宮家の墓所
つなじんじや
3 綱神社
じぞういんほんどう
6 地蔵院本堂

15 りょうごんじ
楞嚴寺
かさましるいだいぼち
12 笠間氏累代の墓地

16 くのとうえん
久野陶園
かさまやきはつしやう
17 笠間焼発祥に係わる登窯

みろくきやうかい
弥勒教会
13 もくぞうみろくぶつりやうぞう
木造弥勒仏立像

18 ほうたいいんさんもん
鳳台院山門

9 かさまじやうもん
笠間城門

9 かさまじやうぐら
笠間城櫓
さんしよじんじや
11 三所神社

いばらきけんとうげいびじゅつかん
茨城県陶芸美術館
なまこゆうながしがけちやつぽ
20 海鼠釉流掛茶壺
まついこうせいさくひん
34 松井康成作品

かさまじやうあと
笠間城跡
9

せいとう
製陶ふくだ
こくゆうこねぼち
21 黒釉捏鉢

しゅんぷうばんりそう
春風萬里荘
35

19 いばらきけんりつ
茨城県立
かさまとうげいだいがっこう
笠間陶芸大学校
36

たなかともさぶろうしやうとくひ
田中友三郎彰徳碑

14 いわやじ
岩谷寺
もくぞうやくしにょらいりやうぞう
木造薬師如来立像

31



かさましこ 文化財MAP

30



かさましこ日本遺産活性化協議会



令和3年度文化庁文化資源活用事業費補助金（観光拠点整備事業）